



第40号
 月 1 回 発 行
 ひの心を継ぐ会
 〒799-1336
 住所:愛媛県西条市
 上市甲 720-1
 TEL:080-2986-0856

綱 領

- 一 私達は明德を明らかにします
- 一 私達は国家の鎮護となります
- 一 私達は大和世界を建設します

神道(十三)(大和世界の建設)

古事記

宇宙の創始

— 実在 — (二)

反省の学

即ち、一、神秘的方法、二、反省的方法、三、弁証(的方)法、の三つ。そして、二の反省的方法を、イ、客観主義即ち存在論的方法、ロ、主観主義即ち認識批判的方法、ハ、客観即主観主義的即ち解釈学的方法の三つに分つ。その中ロの認識批判的方法にカントの先験論方法とハイデッカーの自覚存在論的方法とを包括する。更に三の弁証法を、イ、観念弁証法、ロ、唯物弁証法、ハ、絶対弁証法の三つに分けるのである。

神道も暫くの間、この哲学的方法により、哲学の歴史のあとを調べ、近代哲学がその究極とせるところを探ねていくこととする。

私が神道を書く所以のものは、真理は別々に存在するものでなく、宇宙の根元から派生したものであり、且つ、本来統一されているこの宇宙人生に於て、その宗教哲学思想が異っているように思われても、その根源は一つであり、しかもそれは生命的統一がなされている筈であり、矛盾しているようで統一され、なお、そこに根や幹や枝や葉があつて統一されている一本の樹のように生命的であることを信じるからであり、それが明かにされてこそ真の宇宙と人生の明德が明かにされ、真の大和世界が建設されるからである。

愚かなれども息長く書きつづげんとするのである。

竹葉 秀雄

第四章 士道論

第四節 士たるの生活

菅原 兵治

「志」はかくも切実なる力を以て我が人生の一切を牽引し統制する。「志」あるによつて始めて人生の次から次と起つて来る諸々の事件、諸々の欲求をよく統制し組織して乱ることなく、全体の調和と生長とを来さしめることが出来るのである。

三軍の帥

「三軍も其の帥を奪うべし。匹夫も其の志を奪うべからず。— 論語、子罕篇 —」と孔子もいうているが、真に「志」は人生に於ける「帥」である。一体軍隊統制がよく取れているものはないであろうが、其の軍隊の組織を見ると、統大将(帥)の下に各種の部隊長が居り、其の下に多数の兵士が居る。そして其等の各部分が統帥の命令意向によつて完全に統制せられるのである。吾々人生に於ても丁度之に同じ関係を「志」と欲求との間に於て見得る。次から次と、限り無く生じ来る欲求に就いて、之を判断し、取捨して、常に人生全体に統制あらしむる指導力が即ち「志」なのである。だから三軍に於ても若し其の帥が弱喪したり、正を失したりして、その発する指揮命令に当を得ないようなことになると、忽ちにして全体の統制を紊り、健全有力なる戦闘をなし得ざると同様に、吾々人生に於ても、「志」が一度弱つてしまつたり、正を得ざるに至つたりすれば、忽ちにして其の人格に破綻を生じ、或は肉体的生理の健康を害し、或は精神的性理の道徳を破るに至るものである。而も三軍の帥は之を他の力によつて奪うことも改むることも出来るであ

ろうが、其人の志に至っては其人の自覚に俟たざれば容易に之を改むることが出来ぬ。是れ「匹夫も志を奪うべからざる」所以であって、吾々が如何なる志を持つかということは実に吾が人生を決定する肝腎要の事なのである。故にもし一度誤って正しからざる志を立つるに至らんか、真に受け難き此の人生を一生棒に振らねばならぬことになる。吾々は常に聖賢の学を修め、よき師友を求めて、断えず自己の明德を明かにし、以て立つる処の「志」を常に高く正しく持するようにならねばならぬ。

古代の心②

三浦 夏南

先月号の続きであるが、現代の生活習慣と古代の生活習慣のズレが、我々の根源的な悩みを生むという問題である。我々は走らなくても、今日の食事に困らない社会に生きている。しかし、古代の人々は獲物を追わなければ生きて行くことが出来なかった。そのため、我々の肉体には「生きる為に走れ」という命令が、遺伝子レベルで刻まれて居り、狩猟と無縁な現代でも、有酸素運動をしなければ、生きていけないかもしれないという漠然とした不安に襲われるのである。

これに近い話で、他人と関わることが多い職業は精神的にストレスが多いということがある。何故他人に会うことが多いとストレスが多いかと言えば、現代に於いては仕事で他人と会うことは、ビジネスが広がることであり、自分の成功に結び付くが、親族によって部落を形成し生活していた古代の人々に於いては、見知らぬ他人というのは敵である場合が多く、自分及び家族が危機にさらされる可能性が高かったのである。つまり、血縁者でない人間には本能的に警戒心や敵意を持つように我々はインプットされているのである。これは、頭で分かっているも体が反応することなので仕方がない。

現代は、他人との関りが大半を占める生活を送っている人がほとんどである。子供は学校に行くし、大人は会社に行く、年を取れば施設に行く。そこで関わる人々は他人ばかりである。それが当たり前前の社会になり、慣れてしまっているかにも見えても我々に深く刻まれた本能は変わることはないのである。この本能を無視して社会生活を送ればやはり苦しめられるのは我々自身である。我々にとって自然であるのは、家族及び親族と大半の時間を過ごしながら、信頼のできる少数の他人と時々関わることである。これは集団で生活することを基本としている人間にとっては、不変の原則である。

現代の人々は様々なストレスに耐えながら生活していると言われるが、ストレスのほとんどは人間関係のストレスだと言われている。しかし、その人間関係のストレスは個々の関係性の良し悪しというよりも、他人と関わることは危険を多分に含んでいるという原始的な思考が大きな部分を占めているのである。これを解決するには、家族を中心に生活を営むという原始的な生活様式に我々が帰る必要があり、本能を現代化するということは不可能である。

我々現代人は古代人から見れば、逆立ちをした異常な生活を送っている。古代と現代は時代が違うのだから関係がないという人があるかもしれないが、我々の身心の内であって、大部分の感情を担っているのは古代人の感覚なのである。古代人の感覚を優先しながら、現代の文明を生かして行かなければ、我々は漠然とした不安とストレスに押し潰されてしまうであろう。そこに気付くことが出来れば、人間は家族とともに働き、家族とともに食べるという最も簡単な方法で幸福な生活に近づくことが出来るかもしれない。そこまで行けなくてもまずは朝ごはんを抜いて走ることからでも、古代人の心が喜び、悩みから解放される可能性が十分にあるのである。

とよくも農園だより

三浦美恵

梅雨が明け、いよいよ夏本番がやってきました。朝五時半、きらきらと輝くお日様を見ながら軽トラにハサミと籠を積みこみ、ネギとアスパラガスの収穫に向かいます。アルバイトの人達がやってくる九時までにネギの収穫を済ませ、手早くアスパラガスの収穫・出荷調整を行うのが朝のルーティンになっています。それがひと段落した九時ごろからは、その時々に応じて耕耘、肥料散布、草管理、マルチング、定植、播種を行います。お昼時には一旦家に入り、休憩をはさみますが、午後は一時



ごろから外に出て作業の続きます。夕方四時ごろからはまたアスパラガスの収穫をして一日の農作業が終了します。さらに夏のこの時期は水やりも重要で、夕方の仕事の後にはアスパラガス・里芋・ネギそれぞれに水やりをしなければなりません。アスパラガスと里芋はそれぞれ昨年までもしていたため、大きな心配はありませんが、ネギへの水やりは今年が初めてです。ネギは水で育つため、夏の水やりが欠かせませんが、アスパラガスと違って圃場も頻繁に変わるため本格的な灌水設備を整え、つらく、そうかといって里芋のように畝間に水をはるとネギが煮えて育ちません。県外のネギ農家さんや出荷先の地元の青果会社、近くの農機具センターとも相談しながら、暑さの中なんとか灌水設備を整え、水やりができるようになった時は感動しました。日照りの続いた後に水やりをしていると、ネギも里芋も気持ちよさそうに揺れており、水やりをしている私達の顔もほころびます。水やりに加えて夏時期は虫の活動も活発になるため、定期的な防除も必要です。週に一、

二回、涼しくなった夕方からは各圃場を回って消毒を行います。消毒や水やりは暑い時間帯にできない作業で、すべての農作業を終えたころには七時半を回っていることがほとんどです。

このように、毎日時間に追われる農業をしています。嬉しいこともあります。長男が大きくなり、家族で農業をすることが増えてきたことです。折らないよう慎重にネギの皮をむいたり、バケツに入れた肥料をまんべんなくアスパラガスへ撒いたりしている様子に、ここまでできるようになったかと驚き、その背中少し頼もしくもあります。少し前までおんぶ紐で畑に連れて行っていた長男と、今では一緒に仕事ができると思うと嬉しく、農業を家業として生活ができていくことに幸せを感じます。日々の働きを労働時間と捉えようと、いわゆるブラック企業になってしまうでしょう。しかし家族全員でその日の目標に向かって働き、気持ちよく汗をかいた後は自家製梅ジュースを飲みながらひと休憩し、家に帰ると自分たちで育てた野菜を食べ、全力で働く毎日は、大変な中に大きなやりがいを感じます。よく働き、よく食べ、よく寝て、家族仲良く農業ができていくことに感謝しながら明日からもまた農作業に勤しみたいと思います。



★今後の予定

先月に引き続き個別での勉強会の対応をさせて頂いています。ご希望の方は事務局までお電話ください。

★一燈照偶 万燈照国

ひの心を継ぐ会は竹葉秀雄・近藤美佐子両先生の精神を継承し、発展させることを目的として生まれた会です。一人の「ひ」の精神が周囲の人々の心に「ひ」を燈し、やがてそれが国を照らす「ひ」になることを願い、活動を行っております。皆様には何卒ご理解とご支援を賜りますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

★年会費

一般会員	三千元
賛助会員	一万円
特別賛助会員	三万円
支援会員	一万円

★振込先

「ひの心を継ぐ会」

愛媛銀行・本町支店・普通預金
口座番号 6142735

★お願い

七月より当会は新しい期を迎えました。八月末までに振込先（別紙参照）まで会費を納めて頂き、今後とも当会のご支援をよろしくお願ひ致します。